

地方独立行政法人 北海道立総合研究機構建築研究本部

Mail Magazine【建築研究本部かわらばん】VOL.107 2018/6/20

このメールマガジンは、北海道立総合研究機構（道総研どうそうけん）建築研究本部が、日頃の調査研究、普及業務などで携わっているニュースを中心に、毎月お送りしているものです。

今月号のトピックス

■ 建築性能試験センターより
□ 構造計算適合性判定とは？

■ 北方建築総合研究所より
□ 研究紹介「地域定住促進に向けた『地域生活価値』に関する研究」

■ お知らせ
□ 研究成果報告会へのたくさんのご来場、ありがとうございました
□ 「ジャパンホーム&ビルディングショー2018」北海道パビリオンの出展企業・団体を募集中です
□ 7月17日は「北海道みんなの日（愛称：道みんなの日）」です

■ 建築性能試験センターより
□ 構造計算適合性判定とは？

試験センター 安全性能部 渡邊

かわらばん5月号では、建築性能試験センターの新設について書かせていただきました。今月は業務のひとつである構造計算適合性判定についてお知らせします。

建物を新築するときには行政庁や審査機関に建築確認を申請し、その新築が法令を逸脱していないか計画内容全般について審査を受ける必要があります。建築の設計は意匠、設備、構造など多くの事項に関して設計されています。その中で特に骨組みに関する設計である構造設計について、法令や技術的な基準等を逸脱していないか審査する制度を構造計算適合性判定と言い、規模の大きな建物や少し特殊な構造計算による設計をした建物が対象となります。

この制度は平成17年に起きた耐震偽装事件が契機となり平成19年から行われています。某元一級建築士が共同住宅（いわゆるマンション）の構造設計を偽装し建築の骨組みであるコンクリートの断面や鉄筋の量を減らして建設コストを安価にする目的などで行われた偽装事件です。その偽装により大地震時における建物の耐震性・安全性が大きく損なわれてしまいました。皆様のご記憶にありますか？

我々はご依頼をいただいた構造設計について、時には数千ページにもおよぶ構造計算書や図面をチェックしており、道内の皆様の安全、安心の一役を担っています。昨今は“偽装、改ざん、不正”などの文字や言葉がニュースに溢れている気がしてなりません。我々は真摯に業務に向きあひ的確な業務の実施に努めて参ります。今後とも建築性能試験センターをどうぞご活用ください。

▽4～5月構造計算判定業務の実績（毎月お知らせしています。）

4月	受付	12件（13棟）	結果通知	13件（17棟）
5月	受付	12件（17棟）	結果通知	9件（10棟）

4月の判定依頼は、共同住宅が3件、事務所が2件（いずれも複合施設を含む）のほか、空港施設、診療所、工場、庁舎、学校、寺院、倉庫が各1件でした。
5月の判定依頼は、ホテルが3件、倉庫が2件のほか、共同住宅、学校、工場、寺院、リサイクル施設、港湾施設、住宅が各1件でした。

▼建築性能試験センター

<http://www.hro.or.jp/list/building/bptc/>

■北方建築総合研究所より

□研究紹介「地域定住促進に向けた『地域生活価値』に関する研究」
(H27研究開発推進費、H28～29経常研究)
地域研究部 地域システムG 牛島

人口減少がつづく農山村地域において、地域定住促進は極めて重要な課題であり、その検討にはまず、「そこに住み続けている生活者の方々が、地域での暮らしの何に価値を見いだしているのか」を知ることが極めて重要と言えます。私たちはこれを「地域生活価値」と呼び、その解明に取り組んできました。

平成27年度は、ひと・もの・価値フロー図による地域の暮らしの可視化を通じて、農山村地域の暮らしは、「お金だけではない」価値のやりとりが相当あること、利便性の高さと生活の質（QOL）の関係は単純相関では語れないことなどを明らかにしました。

これらの結果を踏まえて、平成28～29年度は「地域生活価値」を高める要因とその影響の構造をある程度定量的に扱うことを試みました。農山村地域に暮らす方々を対象にアンケート調査を実施し、そのデータを共分散構造分析という統計手法で分析しました。

その結果わかったのは、(1) 地域生活価値を直接的に高める要因は、利便性や住宅性能等を指標とする「客観的な生活環境」と、知人の範囲やつきあいの程度等を指標とする「地域の間人関係」で、(2) 影響力は前者の方が大きいものの、後者もそれに近い影響力があること、(3) 貯蓄状況や経済的余裕の程度を指標とする「経済レベル」も影響力があるが、地域生活価値に対しては「地域の間人関係」を経由した間接的な影響であること等でした。

今後は、より実践的な対策検討につなげるため、上記のような「地域生活価値」を高める基本的な構造を踏まえつつ、個々の現場の実情に丁寧に対応するための「ひと・もの・価値フロー図」等可視化ツールも活用する形で、取り組んでいきます。

ご興味のある方は、ぜひ研究紹介資料や報告書をご覧ください。

▼研究紹介資料（本課題は「経常研究」欄の3件目）

<http://www.hro.or.jp/list/building/develop/nenpou.html#h29>

▼報告書（本課題はNo. 386）

<http://www.hro.or.jp/list/building/develop/houkokusho.html>

■お知らせ

□研究成果報告会へのたくさんのご来場、ありがとうございました

6月6日に開催した平成30年建築研究本部成果報告会では、道内外から167名の方にご来場いただきました。ありがとうございました。

今年は口頭発表に加えポスター発表も実施しましたが、お昼休み時間にも関わらず、多くの方々が発表者と意見交換していただく姿が見られました。

また、第3部の全体討論においては、会場からの他にスマホを活用した質問システムからもご質問をいただき、発表者からお答えさせていただきました。
(質疑の結果は、追って建築研究本部のHPに公開する予定です。)

来場者アンケートによると、興味を持ったセッションとしては「建築技術」が最も多く、「エネルギー」「地域計画」が続きました。発表が早口で消化不良だったとのご意見もいただきましたので、来年以降につなげていきたいと考えております。

■お知らせ

□「ジャパンホーム&ビルディングショー2018」北海道パビリオンの出展企業・団体を募集中です

北海道では、11月20日(火)~22日(木)に、東京ビッグサイトで開催されるJapan Home&Building Show 2018『第13回ふるさと建材・家具見本市』に北海道パビリオンとして出展します。

北海道パビリオンとして出展することで、単独での出展よりも費用が抑えられるほか、共用スペースでの製品のプレゼンや実演の実施など、効果的なPRにより道内住宅産業の販路拡大を図ることができますので、出展を検討されてみませんか。

募集期間は7月13日(金)までです。

▼募集の概要など詳細は、こちらからご覧になれます(道庁HP内)。

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/kn/ksd/jhsko-na-2018.htm>

■お知らせ

□7月17日は「北海道みんなの日(愛称:道みんなの日)」です

松浦武四郎が、明治政府に「北加伊道」という名称を提案した7月17日は「北海道みんなの日(愛称:道みんなの日)」です。

この日を、北海道のこれまでの歴史や文化、風土を見つめ直し、価値をあらためて認識し、道民一体となってより豊かな北海道を築いていくためのきっかけとするとともに、道外から訪れる方、本道にゆかりのある方に北海道の魅力を発信する機会としましょう。

「道みんなの日」には、道内各地の道立施設などの無料開放や記念事業が実施されますので、ぜひご利用ください。

▼詳しくはこちらからご覧になれます(道庁HP内)。

<http://www.pref.hokkaido.lg.jp/ss/ssa/717.htm>

=====
管理者からのお知らせ
=====

アドレスを登録した覚えのない方は、お手数ですが下記の各種お問い合わせ専用アドレス宛てにメールにてお知らせください。
登録内容の変更や配信停止は、下記のアドレスをクリックしていただき、ホームページ上で手続きを行ってください。クリックしても正しく表示されない場合は、アドレスをコピーしてブラウザに貼り付けてご利用ください。
メールアドレスの変更、配信停止の手続きを行ったにもかかわらず、行き違いにより配信される場合がございますので、ご了承ください。

■購読申込・変更・配信停止はこちら

https://www.hro.or.jp/cgi-bin/mail/index.php?id=hokusoken_n

変更・配信停止の場合は、ご意見、ご質問欄に「変更」または「配信停止」と記載してください。

■各種お問い合わせメールフォーム

https://www.hro.or.jp/cgi-bin/mail/index.php?id=hokusoken_q

ご登録いただいた情報は、メールマガジンの配信及びイベント情報の配信を目的として利用し、それ以外の目的に使用することはありません。

発行：（地独）北海道立総合研究機構 建築研究本部
<http://www.hro.or.jp/list/building/research/nrb/index.html>